

研究紀要第29集（2006年3月）佐賀県教育センター

佐賀っ子学力向上プラン

- 学習状況調査の結果を踏まえて -

中学校国語科編



まえがき

21世紀を迎えた今日、少子・高齢化の進行、国際化や情報化の目覚ましい進展など、社会情勢は予想を超える変化を遂げており、教育の場においてもこれらの変化に迅速かつ適切に対応することが求められています。

このような中、佐賀県教育委員会では、基礎学力の定着度や学習意欲等を把握し、指導方法の改善・充実を図るための有効な資料を得るために、小学校第6学年から中学校第3学年までの児童生徒を対象として、学習状況調査を行いました。

平成16年度学習状況調査の結果から、小学校は全国の平均通過率とほぼ同程度、中学校は全国平均より高い傾向が見られました。また、前回（平成14年度）の調査と比較して、各教科とも同等もしくは5ポイント以上、上回るという結果でした。

しかしながら、小中学校ともに、自分の考えを書いたり、資料を読み取ったりする問題の通過率が低いという傾向が見られ、考える力や表現する力がやや不足しているなどの問題点も明らかになりました。変化の激しい今後の社会を生き抜いていくために必要な「自ら学び、自ら考える力」「問題解決能力」などの基礎となる「思考力・判断力」における課題が見えたとも言えます。

そこで、教育センターにおいても、これらの課題を解決し、本県児童生徒の基礎学力向上に資するために、「プロジェクト研究事業」の一つとして、「基礎学力の向上研究委員会」を立ち上げ、指導方法改善の研究に取り組んでまいりました。具体的には、小・中学校の国語科、社会科、算数・数学科、理科、英語科の学習状況調査結果を分析、考察し、課題の見られる内容領域に絞って、その具体的指導方法を探りました。研究委員の委嘱を受けた小中学校教諭と教育センター所員で研究委員会を組織し、理論と実践の両面から研究してきたことをまとめたものが、この「佐賀っ子学力向上プラン」です。

これらの研究の成果が、今後、各学校の授業実践の中で活用され、本県児童生徒の学力向上に役立てられることを願ってやみません。

最後に、研究を進めるに当たって、多くの学校や関係機関に多大のご協力をいただきましたことに改めて厚くお礼申し上げます。

平成18年3月

佐賀県教育センター所長 宮崎 正則

目 次

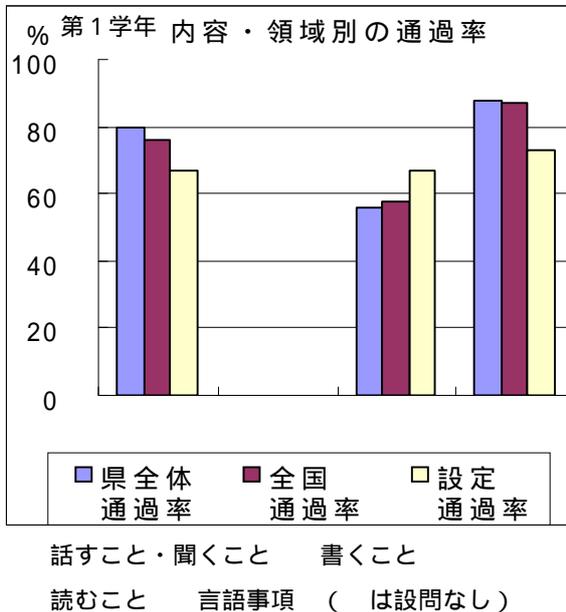
はじめに 平成16年度学習状況調査の結果から	1
Q & A	2
授業展開例	
「麦わら帽子」	4
「走れメロス」	10
「モアイは語る」	16
生徒の反応と今後の研究課題	22
その他の言語活動アイデア	24
読書生活指導について	26
おわりに	28

平成16年度学習状況調査の結果から

- 「読むこと」の領域について -

中学校国語科では、全設問の平均通過率は全国通過率とほぼ同じでした。しかし、内容・領域別の通過率を全国通過率、設定通過率と比較すると、「読むこと」の領域で低くなっています。例えば、第1学年では下のグラフのようになっています。

考 察



第1学年では「話すこと・聞くこと」「言語事項」の通過率は良好であるが、「読むこと」の領域で通過率が低い。

「読むこと」の領域では、文学的文章、説明的文章にかかわらず、様々な設問で全国通過率、設定通過率を下回った。

第2学年でも、説明的文章において、語句の示す内容を文脈の中で正確にとらえる設問が全国通過率に比べて5.9ポイント下回っている。また、文章中に述べられている提言を支える説明の部分の、内容をとらえる設問の通過率は全設問中最も低かった。

課題：「読むこと」の領域の通過率が低い

研究の内容を
次の点に絞りました

研究の目標：目標を明確にした言語活動を設定して「読むこと」の授業を改善しよう

「麦わら帽子を演出しよう」…場面の演出を考えることで、主体的に読みを深め、心情をとらえさせよう。
(第1学年「麦わら帽子」光村図書『国語1』)

登場人物の言動や情景を根拠に登場人物の心の動きを演出させます。演出を目指すことで、登場人物の心情を考えさせることをねらいます。【 p.4～】

「物語の地図を作ろう」…視覚的にとらえる工夫で長い文章全体をつかませよう。

(第2学年「走れメロス」東京書籍『新しい国語2』)

物語地図を使って全体を視覚的にとらえさせることで、展開を把握し長い文章を読み深めさせることをねらいます。【 p.10～】

「SF小説と説明的文章を重ねて読もう」…想像力を駆使しながら、様々な文章を読む楽しさを味わわせよう。(第3学年で再読「モアイは語る」光村図書『国語2』)

豊かに想像し、想像したことを確かに表現できる力をはぐくむことで「読むこと」への関心、そして読書への意欲をもたせる学習を目指します。【 p.16～】

「言語活動って何?」「言語活動例の具体化って必要なの?」という人のための Q & A

Q1 「読むこと」の力が落ちているとよく聞きますが。

A 平成16年度学習状況調査結果から、第1学年、第2学年ともに「読むこと」の領域に課題があることが分かります。また、PISA2003調査結果からも読解力低下が大きく報道されました。

PISA2003調査の「読解力」とは、以前から国語科で言われていた「読解力」とは違います。

「やはり、昔ながらの読み取りをさせる必要がある」と短絡的に考えるべきではありません。内容や書き方について自分の意見をもつ読みなど、読みの指導の工夫が必要です。
(佐賀県の県立高校入試問題にも、このような問題が含まれています。)

読解力育成が必要です。そのためには、生徒自身がそれぞれの考えをもつことを大切にする授業をしましょう。

Q2 「文学的文章の詳細な読解に偏りがちであった」ことが以前の国語科の授業での問題点だと言われますが、「詳細な読解」は問題なのでしょうか。

A 問題とされているのは、以下の点です。

- ・ 生徒の読みを軽んじ、教師の“模範的な”読みに収束する授業
- ・ 細かい解説に時間をかけすぎた授業
- ・ いつも同じパターンの授業

これでは生徒の意欲は半減してしまいます。自分で読むということを経験せず、模範解答を暗記するだけの生徒、国語嫌い、読書嫌いの生徒を作ってしまいます。

生徒が自ら詳細な読解に向かうことはむしろ歓迎されるべきです。読むことが楽しい、授業をするほど文章や本を読みたくくなるような授業をしましょう。生徒が夢中になって読み浸る授業を工夫しましょう。

Q3 言語活動例とは何ですか。その具体化がなぜ必要なのでしょうか。

A 学習指導要領に示された「読むこと」の言語活動例 (ア) 様々な文章を比較して読んだり、調べるために読んだりすること。
(イ) 目的や必要に応じて音読や朗読をすること。

言語活動を自転車に乗る練習に例えると...
...乗り方の解説を聞くだけでなく、実際に自分で乗ってしないと乗る力は付きません。

「読むこと」の授業では生徒の集中した「読む」活動が十分にありますか？教師の「解説」を聞くことが多くありませんか？

学習指導要領解説編にもあるように、「指導内容と言語活動の密接な関連を図り、生徒の主体的な学習活動を促しながら学習の効果を上げるため」に示された言語活動例です。体験(言語活動)を通して分かっていくことが大切なのです。

Q 4 授業時数が少ない中で言語活動例の具体化ができるのでしょうか。

A

- ・ 教科書消化で大変！今日も急いで授業を進めなくては……。
- ・ 教師の正しい読みを説明した方が早く終わる。

これでは力は付きません！

教材の取扱いに軽重を付けましょう。
急いでばかりではなく、生徒の実態から考えて、必要な部分にはたっぷり時間をかけましょう。

教科書はあくまで教材の一つです。生徒の実態を考えて指導のポイントを絞ること、教材の取扱いの軽重の判断、取捨選択をすることこそが、本当に充実した効率の良い授業につながります。

Q 5 言語活動例を具体化した生徒主体の授業って、生徒が自由に読んでいい授業なのですか。

A 生徒たちが楽しく活動すればそれで良いということではありません。目標に合った活動を設定すること、さらに、活動の中でもポイントを押さえていくことが大切です。活動のどこでどのように指導者が介入し支援していくのが重要です。「活動あって学びなし」に陥らないように十分配慮しましょう。

言語活動は生徒の主体的な学習を促すものですが、生徒主体とは教師主体の対極ではありません。むしろ、生徒主体とは教師主体の究極と言えるでしょう。教師のしっかりした計画と充実した支援とがあってこそ、生徒主体の授業と言えるのです。

Q 6 言語活動を設定しさえすれば「読むこと」の力は伸びるのでしょうか。

A 学習指導要領には「C 読むこと」の指導に当たって配慮すべき事項として、次のような記述があります。

目的や意図に応じて的確に読み取る能力や読書に親しむ態度を育てるようにすること。その際、広く言語文化についての関心を深めるようにしたり、日常生活における読書活動が活発に行われるようにしたりすること。

中学校では教科担任制ということもあってか、「この50分の授業でどう力を付けるか」ということに目がいきがちです。50分の授業は子どもの言語生活のうちの一部にすぎません。授業以外での生徒の「日常生活」にも目を向けましょう。（読書生活指導については、26ページ参照）

読書生活指導は「読むこと」の基礎体力を付けることであり、同時に将来の読書生活者を育てるという大変重要な指導です。国語科が中心となり、積極的に読書生活指導を行いましょう。

詳細な読みに主体的に取り組ませる授業展開例

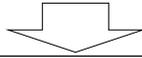
《1年生》

- 場面の演出を考えることで、主体的に読みを深め、心情をとらえさせよう -

教材名：「麦わら帽子」(光村図書『国語1』)

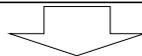
学習状況調査との関連

文章の展開に即して内容、特に登場人物の心情をとらえる設問の通過率が、全国通過率を大きく下回る。



文章の一部分のみにとらわれることなく、文章全体を読んで展開を押さえながら、登場人物の行動、表情等に注目して心情を読み取らせる指導が必要です。

文章の構成や展開を正確にとらえ、内容を理解する設問の通過率が低い。



場面を読み取るために、時間や場所、またそれを表すキーワードに注目させる指導が必要です。また、「現在 過去 現在」や「発端 展開 山場 結末」といった構成パターンを意識させて読ませる指導も行う必要があります。

設定した言語活動とそのねらい

登場人物の行動について脚本を作る

- ・ 直接には語られていない登場人物の心理を動作や情景から読み取り、演出を考えさせます。
- ・ 楽しく活動しつつも、必然的に文章を丁寧に読むようになります。
- ・ 自分が考えた心情を的確に表現する言葉を考えさせます。

グループで考えた演出を基に、監督会議を開く

- ・ 個人で考えた演出案をグループで紹介し合い、グループ案を決めさせます。さらに、各グループの代表による監督会議を開くことで、それぞれの読みの交流を図ります。それぞれの演出を協議する中で、読みを深めさせます。
- ・ 演出の紹介においては、必ず、根拠とした本文の表現を示させることで、単なる話合いに終わらせず、読みを深める協議に結び付けます。

単元の指導目標

- (1) 演出を考えたり、他者の演出を聞いたりすることで物語を楽しませる。〔関心・意欲・態度〕
- (2) 作品中の言葉に注目しながら、登場人物の心情を考えて演出をさせる。〔C読むこと (1)ア〕
- (3) 文章表現に関心をもって、自分の演出の表現を工夫させる。〔言語事項 (1)ウ〕

単元の評価規準

- ア 自分の演出と比較しながら、他者の演出を聞こうとしている。〔関心・意欲・態度〕
- イ 作品中に用いられる心情を表す表現に注目している。〔C読むこと (1)ア〕
- ウ 演出をする際に、作品の表現を根拠にしようとしている。〔C読むこと (1)ア〕
- エ 自分の演出がよく伝わるように、感情を表す言葉を考えている。〔言語事項 (1)ウ〕

単元計画

時	学習活動	評価規準と〔評価の方法〕
1	<p>「麦わら帽子」を読む。 人物・背景・事件について把握する。 事件に注目することで、「発端 展開 山場 結末」という構成パターンを意識させます。 マキの変化について課題を知る。 事件の前後に表現されている「あんちやたちはまぶしくて見るができない」という部分に注目させ、事件について読むという課題を知らせませす。</p>	<p>ア 似た表現に注目して、筆者の意図を考えようとしている。〔観察〕</p>
2	<p>「もののけ姫」のシナリオを読み、アフレコに挑戦する。 【ワークシート1】 ビデオ「もののけ姫はこうして生まれた第3章」を見て、演出について知る。 【ワークシート1】 学習課題「『麦わら帽子』を演出しよう」を知る。</p>	<p>ア 登場人物の心情を考えると、演出にとって大切であることを感じている。 【ワークシート1】</p>
3	<p>事件が起こった小さな無人島の場面のシナリオに、マキの表情や効果音、言葉を入れて、演出を行う。 【ワークシート2】</p>	<p>イ・ウ 手掛かりとなる情景描写や行動描写に線を引いている。【ワークシート2】 エ マキの気持ちが伝わるように表情や効果音を書いている。【ワークシート2】</p>
4	<p>グループで個人の考えを紹介し合い、グループの案を一つに絞る。 一覧表にした各グループ案を見て、監督会議で協議する演出部分を決める。</p>	<p>ア 他者の意見を自分の考えの参考になっている。【話合いの様子】 ウ 自分が考えた演出の根拠となる部分を説明している。【話合いの様子】</p>
5	<p>監督会議を開き、それぞれの演出について質問や意見を出し合う。 【学習資料】 マキの成長について考える。</p>	<p>ウ 他者の意見を聞くことで、根拠となる読みを深めている。【評価メモ】 ア 他者の意見を聞くことで、物語を読む楽しさを感じている。【アンケート】 イ マキのこれまでの心情を考えて、内面の成長を表現している。【授業の様子】</p>

1 / 5 時

「麦わら帽子」を読んで、あらましをつかむ

人物・背景(舞台)
・事件について把握させます。

事件を簡潔にまとめるのは結構難しいので、ポイントを押さえます。

マキの変容に目を向けさせます。

「麦わら帽子」
今江祥智

登場人物
マキ
・ あんちゃ
・ あんちゃの友達

舞台
小さな漁師町の浜島から行く小さな無人島

事件
潮の満ちかきため、マキが助けようとしたためおぼれかけた

「帽子のせいだ、急に大人びて見えるマキのことが、あんちゃも友達も、ちよっぴりまぶしそうだっただ。」

「あんちゃたちは、ひと夏も力もマキもまぶしくて見ることができなかった。」

事件

表現の違いに注目!

展開例の枠は右のようになっています。

指導のポイント
教師の気付き

教師の発問

生徒の発言

「神戸のおじさん」を登場人物に入れてしまう生徒もいるので注意します。

初めの方は、おしゃれな麦わら帽子のせいだと分かるけれど、後の方は帽子のせいじゃなさそう。事件をきっかけに、マキやあんちゃたちが変わったと考えられる。だから、事件を中心にみんなで考えてみよう!

2 / 5 時

アフレコに挑戦して「演出」に出会う

音声を消した映像に合わせて、台詞を言わせませす。(アフレコ)
宮崎監督や音声監督が一つの台詞に対し、いろいろな感情を要求している場面を見せ、演出について知らせませす。

生徒は、同じ場面でも演出によって表現が様々に変わることを実感していきます。

「麦わら帽子」ワークシート1
「もののけ姫」のアフレコに挑戦!

「もののけ姫」のシナリオ(ワンシーン)

人物	台詞	()内はト書き=俳優の動作を示す
イノシシたち	(顔を出す)	
おこめし	もどってきた	
乙事主	はっ(乙事主を見て)	
サン	あー、もどってきた。	
乙事主	よみ 黄泉の国から戦士たちがみんなもどってきた。 (乙事主、ほえる)	
サン	(乙事主、振り返りながら) 続け、戦士たち!しし神のもとへ行こう!	
乙事主	(乙事主を、走って追いかけるながら) 死者がよみがえったりしない。	

* 生徒記入例

宮崎監督と音声監督の注文(=演出)を聞き取るう!

喜びがあった方がいい。
ここは強くこぼつがやき
リア王のよみ。
驚きを入れてください。

ワークシート1

乙事主とサン役に挑戦!実際に自分で台詞を言うことで、映画監督や音声監督の要求の多様さや役者の反応のすばらしさを感じることができます。演出とはどんなものであるか体験させませす。

そんなにいろいろ要求するなんて厳しい。

要求に応じていろいろ言い方が変わって、すごい。

言い方によって話の雰囲気が変わるね。

話の中で、人物がどんな気持ちかいろいろ考えられるんだね。

監督気分で「麦わら帽子」を演出する

演出は次の3パターンで考えさせました。

表情や気持ち（こんな表情や気持ちで動作をさせたい）

効果音（ここでは、こんな雰囲気音楽を流すと、気持ちにぴったり！）

言葉（つぶやきや叫びなど、原作にはないが言わせたい）

* ただし、言葉は2箇所のみ。限定しないと安易に台詞に走ってしまいます。

人物	動作等	演出
マキ	麦わら帽子にカモメを入れている。	
マキ	（くるぶしまで海水が上がる） 麦わら帽子をかかえこみ、舟を待つ。	
マキ	声を上げる。	
マキ	（ひざからももまで、海水が上がる） 立ち上がり、向こうの島を見つめる。	
マキ	カモメを見つめる。	
マキ	（へそまで海水が上がる） 麦わら帽子を差し上げる。	
マキ	（舟が近づいてくる。）	
あんちやたち	舟の上でマキを見つめる。	
マキ	ぬれた麦わら帽子をだきしめる。	

【「麦わら帽子」ワークシート2】「麦わら帽子」を演出しよう！

ワークシート2 (この下の欄に本文の一部を付けたものを配布します)

生徒記入例を見ると、
で一方向からの感情を書いていることが分かります。
この後の学習で「ぐっしょりぬれた～か細い腕」「マキの言いたい言葉」に注目させ、協議させました。

の中の読みが浅いものについては、根拠をもって協議する中で解決されていきました。

- ・うれしそうな表情で
- ・おとなしく中に入ったからほっとして
- ・少しほえみながら
- ・あせっているような感じで
- ・悲しそうにつぶやく
- ・少し不安そうな感じで
- ・「おい、早くー」
- ・「あんちゃー」
- ・「助けてー」
- ・だんだん怖い気持ちになって
- ・怖い感じの音楽を流す。
- ・寂しそうな感じで
- ・不安そうな表情で
- ・暗い目で
- ・今にも泣きそうな表情で
- ・疲れ果てた表情で
- ・必死な感じで
- ・我慢する感じで
- ・気まずい感じの表情で
- ・不安そうな表情で
- ・再会の喜びの音楽
- ・助かってうれしいという感じで
- ・安心した表情で
- ・悲しい表情で

生徒記入例

単なる思いつきではなく、しっかり文章を読んで演出を考えさせるために、下段の本文で根拠となる部分に線を引かせました。色ペンを用いるなど工夫している生徒もいました。

個人でもすんなり書けました。しかし、個人だけでは読みの浅いものが見られました。自然と本文を読みながら、心情を表す言葉を考えていました。
例：「つらそうに」「気まずい感じで」「怒って」「不安そうに」など

グループごとに演出をまとめ、クラス協議の柱を決める

グループになり、個人の演出を紹介し合い、グループ案にまとめさせます。

8つの動作についての各班の演出を一覧表にして、違いの大きい演出をクラス協議の柱とします。

六班	ちよっと悲しい様子で。
五班	悲しい表情で。
四班	安心した気持ちで。
三班	肩を落とし、ため息をつく。
二班	ありがとうとつって気持ちで思いつき帽子を抱きしめる。
一班	カモメを心配するような目で見つめる。

の演出

事件最後の部分の「あんちやたち 船の上でマキを見つめる」と「マキ ぬれた麦わら帽子を抱きしめる」は、班によって大きく演出が異なりました。この部分は協議の中で一番盛り上がりました。

「麦わら帽子」演出班会議結果例

監督会議を開く

話し合いに向けて準備をさせます。

【「麦わら帽子」監督会議用学習資料】

監督会議を開いて、クラス演出案を決定しよう！

代表監督の発表例
 「私たちが、班は、で、……という表情をするといって考えました。」
 根拠となる部分は、『……』というところですよ。

協議での発言例（自分の立場を明らかにして）

賛成 「……という班の演出は、『……』という部分から考えて、とてもよいと思います。」
 付け加え 「班の演出は、『……』という部分も根拠となると思います。」
 「班の演出は、『……』という表現をすると、もっと分かりやすいと思います。」
 疑問 「班は、『……』と書かれているのに、なぜ……という演出にするのですか？」
 反対 「班の……という演出は、『……』と書かれているので、原作からすれると思います。」



学 習 資 料

話し合いの視点について学習し、協議が充実したものになります。また、代表者の話し方についても知らせておきます。

監督会議を開きます。



班の代表者が監督として前に並び、演出の説明を行います。その後、質問や意見を出し合います。教師は、生徒の意見をまとめたり、生徒が気付かない部分を補ったりします。

主な協議の内容

【一班演出】
あんちゃたち
舟の上でマキを見つめる
ほっとした表情

【三班演出】
責任を感じてどろしよっ
もない表情

【四班演出】
マキを助けて感動の様子

「マキは口もきかず」
「あんちゃたちも口がきけ
ず」とあるから、感動して
いないのではないですか？

「カモメのはばたきの
音だけ……」とあるか
ら、気まずい感じがしま
す。

【二班演出】
マキ
ぬれた麦わら帽子を抱き
しめる
あんちゃたち、ありがと
うという気持ち

【五班演出】
安心した気持ちで

【六班演出】
悲しい気持ちで

「ありがとう」っておか
しくないですか。あんちゃ
たちはウニに夢中になっ
ていたから。

マキが一人でどんな思いだったかをもう一度振り返らせて、「カモメを助けた満足感」「あんちゃたちへの怒り」など複雑な思いがあることを考えさせます。

マキの変化を考える

第1時で提示していたマキの変化について考えさせます。

帽子のせい、まぶしい。

マキの変化

- ・ 内面的に成長した
- ・ 精神的に強くなった
- ・ 自信をもっている

「あんちゃたちは、……まぶしくて見る事ができなかった。」

演出でマキの心情を考えた生徒たちからは、「マキの成長」という言葉が比較的スムーズに出ました。

生徒の反応

- いろいろな演出が出ておもしろかった。
- みんなで反論したり、意見を出したりして考えるのが楽しかった。
- 他の人の意見を聞いて、納得できたのでよかった。
- 同じ文章を読んでも、いろいろな表現が出てきて、なるほどと思った。

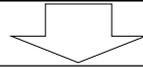
生徒は、丁寧に文章を読み、心情を考えようとしていました。さらに、生徒の考えた演出を基に協議をしたことで、生徒も積極的に登場人物の心情を考え、ぴったりくる言葉を探そうとしていました。

- 視覚的にとらえる工夫で長い文章全体をつかませよう -

教材名：「走れメロス」(東京書籍『新しい国語2』)

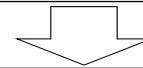
学習状況調査との関連

文章の構成や展開をとらえ、現在のことと過去のことを整理する問題で通過率が低い。



回想場面を用いた文章構成を理解させる学習が必要です。

文章の展開に即して内容をとらえ人物の心情を答える設問の通過率が低い。
表現を手掛かりにして登場人物の心情を読み取る設問で通過率が低い。



部分のみではなく、文章全体の流れの中から登場人物の心情を読み取らせる指導や、表現に注意しながら心情を読み取らせる指導が必要です。

設定した言語活動とそのねらい

物語地図を作る

- ・ 文章全体を視覚的にとらえさせます。
- ・ 時間の流れに沿って物語を整理し直させます。
- ・ 時間の流れに沿っていない展開から作者の表現の工夫を読み取らせませます。

地図に建てる碑について考えさせる

- ・ 出来事と主人公の心情を表す碑文を考えさせます。単なる説明としての碑文ではなく、味わいある言葉になるよう表現を工夫させます。作品の表現をまねながら考えることにより、表現に注目して人物の心情を読み取ると同時に、作者の表現の良さを吟味させることとなります。
- ・ 碑文を書く中で、作者の表現をまねて“試しに使ってみる”ことは使いこなす前段階となり、作品中の言葉を使用語彙へと近付けることとなります。
- ・ 主人公の変化から一番大きな碑の場所を考えさせます。主人公メロスの物語をどう解釈するかということを、メロスの心情の変化を追って全体の流れの中から考えることとなります。

単元の指導目標

- (1) 表現に着目し作者の工夫を考えながら読む楽しさを味わわせる。〔関心・意欲・態度〕
- (2) 効果的な語句の使い方や描写、比喩などの表現に気を付けながら、主人公の心情について読み深めさせる。〔C 読むこと(1)ア、ウ〕
- (3) 作品の表現から語感を磨き語彙を広げさせる。〔言語事項(1)ウ〕

単元の評価規準

ア 他者の考えを参考にしながら碑について考えようとしている。〔関心・意欲・態度〕

イ 登場人物の心情を表す作品中の語句や表現をとらえ、その効果について考えている。

〔C 読むこと(1)ア、ウ〕

ウ 作品中の語句や表現を使いながら、碑文を作成したり考えを述べたりしている。

〔C 読むこと(1)ア、ウ〕

エ 心情表現にかかわる抽象的な概念を表す語句に気を付けて作品を読んでいる。〔言語事項(1)ウ〕

単元計画

0 (学 習 に 入 る 前 に)	<p>「雨の日のおさんぼ」(光村図書・小学2年生 教科書教材)を使って、「物語地図」の作成を体験する。</p> <p>* 「雨の日のおさんぼ」は現在の中学校2年生にとって既習教材です。雨が降った日に、以前から着たかったレインコートをやっと着て主人公(ぼく)と祖母とが散歩に出掛ける、という物語で、短時間で通読できます。橋、森などをあらかじめ書き込んだワークシートに、教師の通読を聞きながら主人公がたどった道筋と出来事、主人公の心情を記入させます。新出漢字や難語句については事前に取り扱い、必要であれば辞書で調べさせておく。辞書的な意味を知ることと作品の中での意味を考えさせることを同時進行させず、生徒が言葉を吸収していくために段階を踏ませます。読み始めたら文章に集中させ、初読の感動がとぎれないようにします。</p> <p>ジグソーリーディングなどの、作者の「仕掛け」に注意して読む読み方を経験しておくこと、今回の表現の工夫に着目する学習にスムーズに入れます。(ジグソーリーディングについては25ページ参照)</p>	
時	学 習 活 動	評価規準と評価の方法
1	<p>全文を通読し、メロスがたどる道筋を地図に書き込み、あらすじをとらえる。</p> <p>【ワークシート1(物語地図)】</p>	<p>イ 時間の流れに沿って、あらすじをまとめ物語を整理している。</p> <p>【ワークシート,観察】</p>
2	<p>地図と本文とを照らし合わせ、展開を考える。</p> <p>【ワークシート1(物語地図)】</p> <p>学習課題について話し合う。</p> <p>碑に刻む言葉の作り方を知る。</p> <p>【ワークシート2】</p>	<p>イ 時間の流れに沿って展開を整理している。</p> <p>【ワークシート,観察】</p>
3	<p>他者の意見を参考にしながら碑文を考える。</p> <p>【ワークシート2】</p>	<p>ウ 場面状況、登場人物の心情が明らかになるように作品の表現を使って碑文を書いている。</p> <p>【ワークシート,観察】</p> <p>ア 他者の意見を参考にしながら、碑文に書き加えをしている。</p> <p>【観察】</p>
4	<p>碑文とそれを作る際に工夫したところ、工夫でねらったことを発表し合う。</p> <p>【ワークシート1(物語地図)】【ワークシート2】</p>	<p>ア・イ 他者の発表を聞きながら、自分が気付かなかった表現の良さと効果について書き加えている。</p> <p>【ワークシート,観察,発表】</p>
5	<p>主人公の心情と人物像の変化から一番大きな碑を建てる場所を考え、発表し合う。</p> <p>【ワークシート1(物語地図)】</p> <p>学習を振り返り、読書への見通しをもつ。</p>	<p>ウ・エ 主人公の心情、人物像の変化を作品の表現を根拠に考えている。</p> <p>【観察,発表】</p> <p>ア 自分とは違う読みと比べて自分の読みを確かめようとしている。</p> <p>【ワークシート,観察】</p> <p>ア 文学的文章を読む楽しさに気付き、読書への意欲をもっている。</p> <p>【自己評価,観察】</p>

1 / 5 時

1 朗読を聞きながら、あらすじをとらえる

2 条件に沿って初読の感想を書く

初読の感想の書き方を指示します。

(1) 内容についての感想（初級）

以下のような記号を使い箇条書きにさせます。

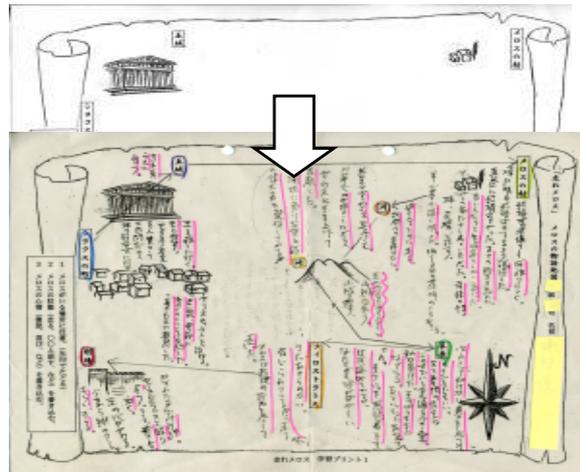
- ♡ 感動した おもしろいと思った
- ? なぜだろうと思った など

感動やおもしろさを感じたところから作者の表現の良さに気付くように導いていきます。

なぜだろうという生徒自身の文脈と教材とのずれも理解への大事な道筋になります。

(2) 作者の執筆方法についての感想（中級）として、作者はどのような“しかけ（工夫）”を使ったかについて書くように指示しました。

主要な場所の名前のみを印刷したシートに主人公のたどった道筋などを書き込ませていきます。



ワークシート1 物語地図記入例

2 / 5 時

1 展開を確かめながら色分けする

本文と地図とが対応できるようにします。

必要なページに素早くたどり着くための工夫も長い文章を読む際に有効です。



教科書への書き込みの様子

2 人物関係図を使い、登場人物の関係を考える

3 初読の感想を共有し、学習課題を考える

生徒には次のような個人差が考えられます。

- 1 初読の段階から表現の特徴や作者の執筆意図まで迫っていける生徒
- 2 初読の段階では、作品の内容に浸って読んでいる生徒
- 3 初読の段階では、作品の内容の把握も不十分な生徒

2, 3の生徒には、作品の内容に浸ってそのおもしろさを楽しむことを最初のステップとし、その楽しさを足掛かりにしながら、「感動やおもしろさはどこからくるのか」ということに目を向けさせることによって、作者の“しかけ”へと視点をスムーズに転換させます。

4 碑文作成の視点について知る

生徒は1年ときに「碑」を学習しています。その中に出てくる碑には、碑を建てた人が後の世の人に伝えたかった深い思いが込められていたことを振り返らせませす。また、あの碑は、当時の校長先生による短歌が刻まれた歌碑と対になっていることを紹介します。ただの案内や説明ではない味わいのある碑文を考えさせるための準備とします。（「碑」に出てくる碑については、広島平和記念資料館ウェブサイトのHPで見ることができます。）

1 本時の学習課題を確認

前時に示した例を振り返り，碑文の作り方について確認させます。

碑文の例 場所：峠

メロスは山賊に囲まれた
飛鳥のごとく猛然一撃
たちまち三人を殴り倒し
峠をさつさと駆け下りた
正義のため友のために行か
なければならぬ
峠を下るメロスの向こうに
太陽が明るく輝いていた

「~のごとく」というのは，詩の学習のときに“比喩”と習った「~のように」と同じ使い方だ。

登場人物の心情を象徴するような表現があるね。「初夏満天の星」のところで考えたね。

まだ他にもあるかもしれない。

めあて：表現を工夫しながら碑に刻む言葉を考えよう

碑の条件を提示します。

- 1 出来事が分かる
- 2 主人公の心情が分かる
- 3 表現の工夫をする

どのような碑文を作るのかが分かるように，ゴールの姿を具体的に示します。

初級 例

山賊に囲まれたメロスは三人を打ち倒して逃れた

山賊には気の毒だが正義のため友を守るために走ろう

峠を下るメロスの向こうに太陽が明るく輝いていた。

の順に書く。

中級

順序の工夫も含めて、あらかじめ把握や友人の感想の中で出てきた表現の工夫の中から三つ以上を使う。

上級

誰も見付けていない表現を使う。

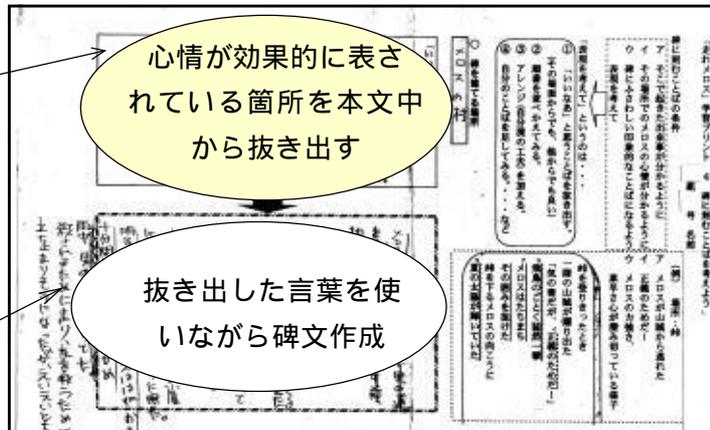
出来事 心情 一文 工夫した

2 碑文を作る際参考にしたい表現を抜き出す

作文学習の際の構想メモのように，碑文の中に使いたい言葉を「走れメロス」の本文の中から抜き出させます。

抜き出すことができない生徒には，読後の感想の中の，感動した部分などを振り返らせます。

抜き出した言葉を使いながら碑文を作っていきます。



ワークシート2 記入例

3 グループのメンバーが使った表現を参考にして、自分の碑文を作り上げる

碑文の完成度ではなく、表現の良さを吟味する過程が大事です。どのような表現が、どのような効果を上げているのか明記させます。表現に注意して読み取ることによってより明確に浮き彫りにされる登場人物の心情に注目させます。

再び走り出したところの「走れ！メロス」は「」がないけれど、だれかが話しているような書き方だ。



グループでの話し合いの様子

このへんは「。」が多くて文が短いよ。焦っているような感じがするね。文の長さを考えてみよう。

「メロスは激怒した」という書き方も、時間の流れどおりではなくて印象的だよね。碑文も書き出しを工夫しよう。

4 本時の学習について振り返り、次時への展望をもつ

4 / 5時は表現の工夫とその効果について話し合うことを確認します。

(4 / 5時)の生徒発表と協議の例

「信じられているから走るのだ」
メロスは黒い風のように走った
呼吸もできず、二度三度口から血が噴き出した
最後の死力を尽くしてメロスは走った
わけの分からぬ大きな力に引きずられて走った
「いや、まだ日は沈まぬ」
「ついてこい！フィロストラトス」

生徒作品例

「信じられているから走るのだ」という書き出しにして、友の信頼に報いたいというメロスの強い決意を印象付けたいと思いました。

「黒い風のように走った」という比喩法を使ったところは、メロスが速く走ろうと必死になっている様子が表現できていると思います。

「いや、まだ日は沈まぬ」とは、だれがだれに言っている言葉なのかな。

「いや、～」は自分自身に言い聞かせている言葉で、メロスの祈るような気持ちを表現しています。その「胸の張りさける思い」にも注目させ、「もっと恐ろしく大きいもの」の存在に気付かせます。教師は生徒の読みが深まるよう話し合いの中にも介入しましょう。



碑文発表の様子

文末を「～走った」と繰り返すことで、メロスがひたすら走っている様子が表れています。

「いや、まだ日は沈まぬ」はフィロストラトスに言っているようでもあるけれど、メロスが自分に言い聞かせているようにもとれるよ。

1 前時まで完成した各場面の碑文を読み返しながら，作品全体を俯瞰させる

めあて：一番大きな碑はどこか考えよう

2 大きな碑の場所を根拠をもって考える

メロスという人物が一番大きく変化したところに一番大きな碑を建てよう。

人物の変化を作品全体から考えることとなります。完成した一人一人の物語地図に大きな碑を建てる場所を書き込み，根拠とともに発表させます。

大きな碑を建てる場所は草原だと思います。そこより前のメロスは、「激怒」や「王に～見せてやろう」とあったように，ただ王に対する怒りから走っているだけだったけれど，その後走り出したときは「わけの分からぬ大きな力」によって走ったので，走る理由が違ったからです。

生徒の発言例

一番大きな碑の場所を収束的に結論付けるのではなく，自分とは違う解釈を聞くことによって自分の今までの読みを振り返り，生徒個々が抱いている「鑑賞」を深めさせるようにします。集団としての地図ではなく，現時点の個人の地図を完成させることとなります。

友達の意見でなるほど！と思ったのは、「悪い心に一度は負けたメロスが，その後悪い心に勝った」という意見です。場所は私も同じ草原だったけど，体が疲れただけではなく，悪い心に負けそうになってそれに打ち勝ったというところが私と違っていました。

発表を聞いた後の生徒の発言例 1

草原で倒れたところで，メロスが王と同じ考え方になったというところがなるほどと思いました。変化はいつも悪から善と思っていたけど，善から悪という考え方もあっていいんだなあと思いました。メロスに王と同じようなところがあつたなんて意外でした。

発表を聞いた後の生徒の発言例 2

3 読書についての見通しをもつ

読書に関する生徒の実態を考えながら，内容の関連した本，今回使った読み方が試せる本，同じ作者の本など様々なつながりの本を紹介し，読書への見通しをもたせます。

生徒の反応

学習後の振り返りの中には，次のような生徒の言葉がありました。

- ・ 長い文章でうわーと思ったが，物語地図や碑文を考えたりしていたらとても分かりやすかった。
- ・ 文が長くて最初はいやだと思ったが，イメージができるようになってきた。
- ・ 普通に読んだだけでは分からないところが作者の工夫を考えたら分かってきた。
- ・ みんなが意見を出し合うことでいるんな考えが分かった。
- ・ 『走れメロス』のような本なら読んでみたいと思った。

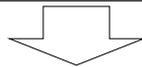
- 想像力を駆使しながら，様々な文章を読む楽しさを味わわせよう -

教材名：「モアイは語る - 地球の未来」(光村図書『国語2』)

「女神は見守り給ふ」(ジョセフ・バーガー・風見潤訳『ショートショート秀作選1』集英社
コバルト文庫)

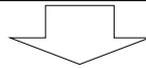
学習状況調査との関連

登場人物の心情を読み取り，記述する設問で通過率が低い。



手掛かりとなる表現に焦点を当てて想像力を働かせる学習が必要です。これは，文学的文章の指導だけの問題ではありません。間接体験（テレビ等のメディアからの）が豊富にあっても，「読むこと」に応用できていないのです。想像し，それを表現する学習が必要です。

読み取ったことや自分の考えを表現する設問で無解答が多い。



自分の考え，意見を書くことを授業の中で度々取り入れていく必要があります。文章の様式に沿った例を指導者が的確に示していきます。また，考えや意見を交流させるための工夫も必要です。

設定した言語活動とそのねらい

自分が想像したことを挿入しながら，文章の紹介文を書く

- ・ 表現をよく吟味させます。
 - ・ それぞれが想像したことを発表，交流させることで文章中の表現を読み深めていきます。
 - ・ 文学的文章で想像する楽しさを味わわせるだけでなく，説明的な文章でも取り上げられた史実の裏にある人々の苦悩や願い，細部の情景などに思いを馳せて読む楽しさを実感させます。
- 複数の文章を重ね読みする
- ・ 複数の文章を読むことのねらいは様々ですが，今回は，文学的文章と説明的な文章を横断する「読むこと」の学習を設定しました。『女神は見守り給ふ』が，説明文『モアイは語る』に対する興味を引き上げることが期待されます。文種を横断して，想像力を働かせることの大切さや楽しさを実感させることをねらいます。

単元の指導目標

- (1) 想像力を働かせながら読むことで，様々な文章に親しませる。〔関心・意欲・態度〕
- (2) 様々な文章を細部の表現に注目して想像力を働かせて読ませる。〔C 読むこと(1)エ〕
- (3) 自分の考えや意見を分かりやすく伝えるため，言葉を吟味させる。〔言語事項(1)イ〕

単元の評価規準

- ア 自分の読みを交流しようとしている。〔関心・意欲・態度〕
- イ 指定された表現と関連する表現とを結び付けて，想像を働かせている。〔C 読むこと(1)エ〕
- ウ 自らの体験（直接・間接）を使いながら，想像を働かせている。〔C 読むこと(1)エ〕
- エ 想像したことを伝えるために，緊迫した状況を表現する言葉を使っている。〔言語事項(1)イ〕

単元計画

時	学習活動	評価規準と評価の方法
1	『女神は見守り給ふ』中の難語句について簡単に言い換える作業に、先行して取り組む。 【ワークシートA】	エ 辞書的な意味だけでなく、文脈に沿って言葉の意味をとらえている。 【ワークシート】
2	『女神は...』の教師の音読を聞く。 題名から「女神は、何を見守っていたのか」について考え、発表する。	ア 積極的に近くの者に声を掛け、自分の考えを出し合っている。 【話合いの様子】
3	文章中の「大変化」という表現に注目し、具体的にはどのような光景を想像するか、発表する。 学習活動 について再考する。 2年時に学習した『モアイは語る』を再読させる。	ア 積極的に近くの者に声を掛け、自分の想像を出し合っている。 【話合いの様子】 イ・ウ より確かに想像するための根拠を文章中から探している。 【机間指導】 イ・ウ 前時と比べ、根拠を添えて考えを述べられるようになっている。 【発表】
4	『モアイは語る』の中に、『女神は見守り給ふ』の「大変化」から想像したこととつながる段落、表現がないかを考える。 で挙げられた段落、表現を基にして想像したことを文章化する。 で文章化したものを黒板に書き（指名された数名）、想像の内容と表現の仕方の双方から評価する。 学習活動 で取り上げた「見守る女神」の表す意味について、これにつながる想像が『モアイは語る』でも浮かび上がってこないか考える。	ア 積極的に近くの者に声を掛け、自分の考えを出している。 【話合いの様子】 イ・ウ より確かに想像するための根拠を文章中から探している。【机間指導】 エ 想像したことがより確かに伝わるよう、言葉を選んでいる。 【机間指導】 イ・ウ・エ 黒板の発表を見て、想像の広げ方や想像したことを表現する際の「巧みな点」を強調し、ノートに写し取っている。【ノート、観察】
5	学習活動 で取り組んだ「想像したこと」を挿入し、『モアイは語る』『女神は見守り給ふ』を紹介する文章を完成させる。 【ワークシートB】 学習を振り返り、様々な文章を読むときに求められる「想像力」について感想を述べる。	イ・ウ・エ 前時、黒板に発表された考えなども参考にして、想像したことを文章化している。【机間指導】 ア 日常の読書において、想像力を働かせて読む楽しさを体感するようになってきている。【事後の聞き取り】

本時のめあて：『女神は見守り給ふ』を読む前に、「文中にぴたり言い換え」をやってみよう

① 鎮火 西日本新聞 ① 火が、あつたこと。 ② 火事か、あつたこと。 ③ 火事か、あつたこと。 ④ 火事か、あつたこと。 ⑤ 火事か、あつたこと。	② 濃霧 西日本新聞 ① 見通し、あつたこと。 ② 見通し、あつたこと。 ③ 見通し、あつたこと。 ④ 見通し、あつたこと。 ⑤ 見通し、あつたこと。	③ 相次いだ 西日本新聞 ① 次、あつたこと。 ② 次、あつたこと。 ③ 次、あつたこと。 ④ 次、あつたこと。 ⑤ 次、あつたこと。	④ 警告 西日本新聞 ① 注意、あつたこと。 ② 注意、あつたこと。 ③ 注意、あつたこと。 ④ 注意、あつたこと。 ⑤ 注意、あつたこと。	⑤ 回避 西日本新聞 ① 避ける、あつたこと。 ② 避ける、あつたこと。 ③ 避ける、あつたこと。 ④ 避ける、あつたこと。 ⑤ 避ける、あつたこと。
--	---	---	--	---

① 海水を割って 一枚目右3行目	② 土左衛門 一枚目左14行目	③ 焚書 一枚目右15行目
① 水が、あつたこと。 ② 水が、あつたこと。 ③ 水が、あつたこと。	① 人形 ② 水におぼれ 死んだ人	① 書物を見まわす ② アルバム
③ 水死体 船長は船首へ走ってきて、おれの横に立ち、巨大な天を見て、ゆっくり揺れながらあがってくる顔を見下ろした。	③ 水死体 船長は船首へ走ってきて、おれの横に立ち、巨大な天を見て、ゆっくり揺れながらあがってくる顔を見下ろした。	③ 水死体 船長は船首へ走ってきて、おれの横に立ち、巨大な天を見て、ゆっくり揺れながらあがってくる顔を見下ろした。

常時教室に置いているプリント 生徒記入例

ワークシートA 生徒記入例

この「文中にぴたり言い換え」のためのプリントは、常時各教室に置いています。
好きなときに取って、新聞や読書中の本から材料を集めて取り組むよう勧めています。
事後は漢字帳にはって提出させ、評価を書き入れています。
積み重ねたことが授業で発揮されるよう計画することが大切です。

使用するワークシートAは、上のように言い換えたい言葉の前後までを抜き出させます。
本を読む前の予告編としてどのような話が想像できるように仕組んだものです。

土左衛門って、何？



分からないけど、文の流れから考えるって先生はよく言うよね。



(3)を黒板に書いて発表する当番は、うちの班か。自信がないぞ.....

(3)の言い換えはいいな。辞書に載っている意味をさらに分かりやすく言い換えているね。



本時のめあて：注目すべき表現について，どのような光景が想像できるか発表しよう

「言語活動」には，生徒が自分の力でできること，という完成形のイメージが先行しているのではないのでしょうか。

しかし，そうなるまでには「文章のどの言葉に着目すれば，楽しく深く読めるのか」「注目すべき言葉を，他の言葉との関係からどのようにとらえていけばよいか」などについて指導者の的確な出番が肝心であるはずで

す。指導者が自分の読みを講義するのは違います。どこに指導者の出番を想定しておくか。そこでの助言は具体的なものか，読み方に通ずるものか。

古くて新しい課題なのだと感じます。



この文章には，何度も出てくる言葉があるな。そう「大変化」だね。この「大変化」って，何のことだろうか？

分かった，大地震！津波，とか。その津波で「自由の女神」が海中に沈んだんだ。どう？

核戦争？



核戦争？ 大地震？

「大変化」がそのようなものだとしたら「女神の首」など粉々になって原形をとどめていないのではないかと

その他の表現にも注意して，言葉と言葉をつなぎながら「絵（想像した情景）」を描かなければ……さて，どんなことが起きたのか。手掛かりはみんな，既にもっているんだけどね。

分かった！「焚書」が関係してるんだ。ワークシートAにあったらう？



「焚書」は「焼き払うこと」と言い換えたから，テロみたいなものじゃないかな。大変化とは。

「テロ」「暴動」「反乱」「デモ」などの言葉が，この後発表されました。自分が想像した情景を具体的に発表するよう，更に尋ねることで，ねらいに迫りました。

「足下からライトアップされた自由の女神像。その周辺を大群衆が取り囲んでいる。幾人かが女神像によじ登っている。群衆からは，女神像を破壊しようとする彼らに対する声援と，止めてくれという悲鳴が入り交じって聞こえてくる」

などは規準を「十分達成している」と評価できます。

終末で，ここに登場する「大変化」とは「人々のいさかいなのだ」とまとめました。

本時のめあて： 『女神は見守り給ふ』に描かれていたこととつながる段落や表現を『モアイは語る』の中に探すことで、想像力を発動させよう



形式段落の15が『女神...』の「大変化」とつながっていると思います。



え、8段落だと思ったんだけど？
だって、自由の女神は暴動を起こす人たちに「おやめなさい」って見守っていたんでしょ？だったら、8段落のここ「モアイは.....」というのにつながるでしょう？ねっ？ねっ？

どんな表現が、「大変化」とつながると思うのか？
「大変化」から想像を広げたときは「燹書」などを手掛かりにしたよね。あのときと同じだぞ。
君が想像したことは、『モアイ...』らしい舞台を基に描いているかな？そうして『モアイ』と『女神は...』それぞれの言葉 いくつかどこかで見たことのある画面、3つをつないだ“絵”(想像した情景)になっているかな？

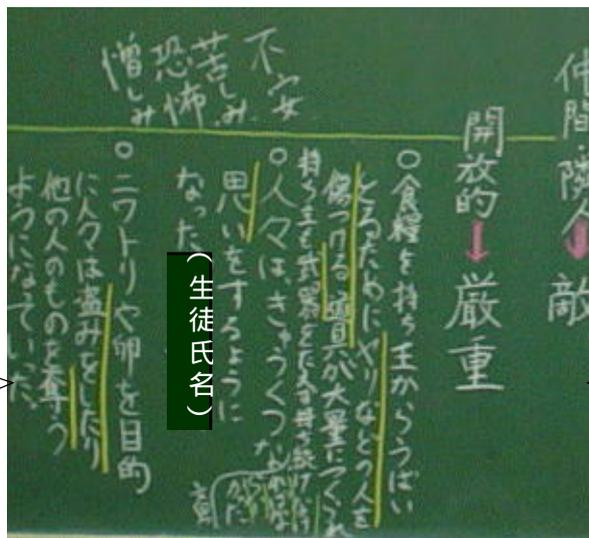


表現を基にして広げた想像を文章化させます。これを黒板に書かせ(数人を指名)想像の内容と表現の仕方、双方から評価します。全体のモデルとなるように評価するのです。



ねえねえ、どんなことを書いたの？
こんなの。
あー、なるほどね。それはあったかもしれない。

「きゅうくつな思い」なんて、みんなは具体的に想像できるかな？
極端に言えば昨日まで近所付き合いをしていた人が信用できなくなる生活に変わるんだ。
単に「憎しみ合う」などの表現とは違うよね。周りのどの人たちに対しても、接し方が同じだった訳ではないよね。



板書例

なるほど。仲間、隣人「開放的な」という言葉、それに対する「敵・厳重な」という言葉に注目したんだね。
こっちの人も同じ言葉に注目して想像を広げたようだね。
「人を傷つける道具」として「ヤリ」か。ありそうだね。
次の時間は、それぞれの人が想像したことを使うから、今日発表してくれたことも参考にしようね。

「女神は(何を)見守っていたのか」と「モアイは(何を)語っているのか」……題名のつながりも考えさせることで、想像の世界を“つないで広げて”いけます。左ページで発言している生徒が、つながりは8段落にあることに気付いています。

5 / 5 時

本時のめあて： これまでの「想像したこと」を挿入し、『モアイは語る』『女神は見守り給ふ』を紹介する文章を書こう

今日はまず、モアイ像に託された願いとその理由について想像してみよう。そして、想像したことを発表してほしい。

さあ、締めくくりの活動です。ワークシートBを見てください。線の枠が自分の考えを書くところなのはいつもと同じです。ここに、今までの自分の想像を挿入することで紹介文を完成させよう。

4 『モアイは語る』の 組 子 号 氏名

例2 SFは絵空事なのではない。南太平洋に浮かぶ絶海の孤島イースター島。遠い昔この島に繁栄した社会が、現在では滅亡している。「人類の終末」は現実存在する。

I 滅亡の原因は食糧危機であった。
II 滅亡の原因は食糧不足に端を発した。人と人とのいさかいである。
III ここでもまた、神は人類を見放した。

④食糧危機に直面したイースター島。人々は生き残るために(争いや強奪を始めた。毎日武器を持ち人々は神に祈ることを怠れ、幸せを失った。そして人々は自らまいた種を神のせいにした。神も失い何もかもなくした人々は生きることに涼しさやつかやなな、てしまった。にちがひない。

イースター島に遺されたモアイ像。その謎を解こうとする調査が、滅亡の原因を明らかにした。イースター島の文明は、西方から島伝いに渡来したポリネシア人が作り上げたものであるらしい。五世紀頃のことである。調査で解明された。イースター島には、かつて豊かな杉の林があったことが、調査で解明された。そのような自然を背景に、人々は農耕と漁業を主として、文明を築いたのだろう。十一世紀に入り、島民は、突然モアイ像の製造を始める。モアイは内陸を向いて立つ、祖先神・守り神であったらしいことが分かった。また、モアイの製造が盛んになったのは、島の人口が急激に増えてきた頃と一致するようだ。

⑤一つのモアイ像に一人の神祇をらし、全てのモアイ像はイースター島に幸せを運んで来てくれるように、一つひとつのモアイ像にはそれぞれ願いが込められてつくられたのだろう。

多くの人を養うため、つまり薪や家屋の材料として杉の木は伐採された。また、農耕地を広げるという目的のためにも、林は消滅させられていった。木がなくなることで島の土壌が変化していく。皮肉にも、林が伐採されることで、農耕地として使える土地がなくなっていく。

加えて、モアイ像を海岸まで運ぶためにも、杉の木を切り倒すことが必要であったらう。

さらには、木がなくなれば舟の製造ができなくなる。周りは海なのに、魚を捕る方法がなくなっていく。八方ふさがりである。

こうして、イースター島は ⑥(Ⅰ-Ⅲを、少し形を変えて繰り返せばよい) ポリネシア人の手によって破壊され滅せにまわっていた。

4 『モアイは語る』の 組 子 号 氏名

例2 SFは絵空事なのではない。南太平洋に浮かぶ絶海の孤島イースター島。遠い昔この島に繁栄した社会が、現在では滅亡している。「人類の終末」は現実存在する。

I 滅亡の原因は食糧不足に端を発した。人と人とのいさかいである。
II 滅亡の原因は食糧不足に端を発した。人と人とのいさかいである。
III ここでもまた、神は人類を見放した。

④当初はニワトリを放し飼いにせられろはと食糧は豊富であった。しかし食糧不足になると人々の生活は一変した。ニワトリなどの食糧は貴重になり、それを持ち主からうばいとりたためにヤリなどの人を傷つける道具が大量に作られ持ち主側とたす武器を持つようになった。人々は争いを繰り返すようになった。

イースター島に遺されたモアイ像。その謎を解こうとする調査が、滅亡の原因を明らかにした。イースター島の文明は、西方から島伝いに渡来したポリネシア人が作り上げたものであるらしい。五世紀頃のことである。調査で解明された。イースター島には、かつて豊かな杉の林があったことが、調査で解明された。そのような自然を背景に、人々は農耕と漁業を主として、文明を築いたのだろう。十一世紀に入り、島民は、突然モアイ像の製造を始める。モアイは内陸を向いて立つ、祖先神・守り神であったらしいことが分かった。また、モアイの製造が盛んになったのは、島の人口が急激に増えてきた頃と一致するようだ。

⑤モアイの製造と人口が急激に増えた事、二つの事から考えろと、どしたか？人の子供が産まれたら、ラフモアイを作ろと、ラフどはなれたか。産まれた子供が元気で健康に育つてくれろようにと願って作ったのかもしれない。

多くの人を養うため、つまり薪や家屋の材料として杉の木は伐採された。また、農耕地を広げるという目的のためにも、林は消滅させられていった。木がなくなることで島の土壌が変化していく。皮肉にも、林が伐採されることで、農耕地として使える土地がなくなっていく。

加えて、モアイ像を海岸まで運ぶためにも、杉の木を切り倒すことが必要であったらう。

さらには、木がなくなれば舟の製造ができなくなる。周りは海なのに、魚を捕る方法がなくなっていく。八方ふさがりである。

こうして、イースター島は ⑥(Ⅰ-Ⅲを、少し形を変えて繰り返せばよい) 食糧不足を原因とする人と人との争いの結果、滅亡したのである。

ワークシートB 生徒記入例

生徒の反応

書かれていることを基に書かれていないことへ想像を広げる面白さ、それらを交流する面白さを、改めて体感させる契機になりました。その後、本格的な作品の読書に挑んだ生徒もいます。

1 生徒が意欲的に学習に取り組みました

- ・ 楽しく学習できた。
- ・ 長い文章でうわーっと思ったけど（活動するにつれ）どんどん分かってきておもしろかった。
- ・ 何度読んでも飽きなかった。

（今回の授業のように）必死で考えたことがなかった。考えるのは大変だったけど楽しかった。

- ・ （この学習が）おもしろかったので、他のも読んでみたいと思った。
- ・ （今までは嫌だったが）読むのも悪くないな。

（文章を読むのは嫌いだったが）漫画みたいに絵が全部付いているようなのじゃなくても、文字を読んで自分でいろいろ想像するのもおもしろいと思った。

ふだんの授業と比べて、言語活動を設定した場合、生徒の意欲が向上することが、教師の観察からも、生徒のつづやきや学習の振り返りの記録からも明らかでした。

生徒の意欲を喚起するような言語活動を効果的に取り入れ、様々な授業形態を使えるよう、自分の授業形態の幅を広げていきましょう。

2 生徒の読みに対する姿勢が変化しました

夢中になって演出を考えたり2つの作品のつながりを探したりという活動に取り組むうちに、夢中になって文章を読んでいて、言葉に向かっていて、という状況を作り出すことができました。さらに、読むことが楽しくてたまらないという状態にまで達することができた生徒の姿もありました。

「カモメの羽ばたきの音だけ～」とあるから……（「麦わら帽子」より）

「モアイ」と「女神」が対応しているのだから……（「モアイは語る」より）

言葉を読み流しがちだった生徒が、しっかりと文章と向き合い、言葉にこだわって考えることができました。

教師の一つだけの“模範解答”を聞き、か×かで読みを結論付けてしまうような読み方のときと比べ、生徒の読みに対する姿勢が違いました。

多様な読みが認められ、自分なりの読みをもち、他の読みと比べることによって自分の読みを確かめたり深めたりしていくという今回の学習では、自分の考えを補強する根拠を文章の中から見付けなければなりません。授業時間の中に占める生徒自身が文章を読む時間が長くなりました。

「なぜそう思うか？」「どこから分かるか？」という根拠をもって生徒が考えるよう、教師が発問や支援をしていくことが活動例を具体化する上で重要なことでしょう。

村を出発するところでは「身代わりの友を救うために」と言っていたのに、「まにあう、まにあわぬは問題でない」ところではなっているのだから……（「走れメロス」より）

同じ文章を読んでいても、いろいろな表現が出てきて、なるほどと思った。

みんなが意見を出し合うところでいろんな考えが分かった。

他の人の意見を聞いて納得できた。

このような個々の読みの交流をするためには、学習集団として学級を育てていかなければなりません。同時に、上記のような学習をしながら学習集団としての質を高めることにもなります。学習集団の育成が言語活動を設定する際の課題となります。

3 言語活動を通じての学習は次へつながります

たとえ、準備や指導過程にいくらか時間が掛かったとしても、十分に活動させることによって確実に力が付きます。その力はまた次に使える力です。次の段階では少し手を変えたり、加えたりしていくことで力が定着し、向上していきます。そのためにも、1年間、さらに3年間という長いスパンでの系統性、計画性が必要です。年間計画の中に位置付けていくことが課題でしょう。

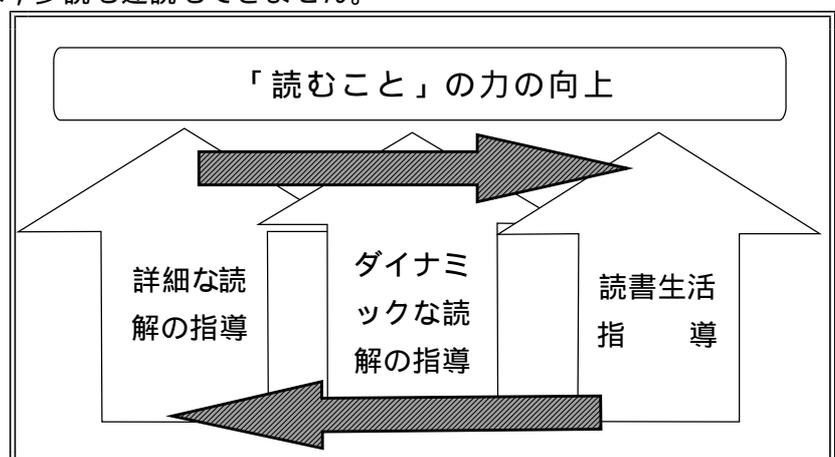
今回の「麦わら帽子」の授業では、演出を考えることを通して登場人物の心情を考えさせましたが、その単元過程には、演出について知る 演出という方法を使ってみる 演出という方法を使いこなすという段階が必要になります。一度この方法を体験をしておけば、次の学習にこの方法を用いることが容易になってきます。

4 3つの流れを意識して単調な授業に陥らないようにしましょう

「詳細な読解」すなわち精読に偏っていたことが問題点とされたことから、今回の研究では「詳細な読解」とともに「読書生活指導」と「ダイナミックな読解の指導」を考えました。「ダイナミックな読解の指導」の一つは、文章全体を俯瞰して読む読み方です。学習状況調査の誤答例には問題文中の傍線の近くから答えを求めようとしたものが多く見られ、「文章全体を読む」ことが苦手であることは明らかです。通読 場面分け 場面ごと前から順に、という単調な学習を繰り返しては、ある程度の長さのある文章は読めません。長文に対する苦手意識、ひいては読書嫌いの傾向も払拭できません。「ダイナミックな読み」には、他にも、例えば、第1場面の読み 第1場面と第2場面までの読み 冒頭から第3場面までのすべての読みを、と考える範囲を徐々に広げていくような読み方も考えられます。また、少しくらい分からない語句があっても、前後の文章などから考えながらぐいぐい読み進めていくという読み方も必要でしょう。ページをぱらぱらとめくってめぼしい部分を拾い読みするという読み方もできなければ、多読も速読もできません。

この3つの流れは厳然と分離したのではなく、時に混じり合いながら進められるものです。今後の読みの指導はこの3つの流れを意識して進める必要があります。

このような生徒に必要な様々な読み方を考えていくことも今後の課題です。生徒に様々な読みを体験させましょう。



その他の言語活動のアイデア

同じ教材でも、生徒の実態や目標によって次のような展開も考えられます。

例えば、「麦わら帽子」では・・・

同じ作者の作品を読み、書評を書く。

身に付けさせたい力：文章の展開や構想をつかむ力

授業過程

- 1) 全文を通読する。
- 2) 書評を数本読む。
- 3) 書評を書くために、今江祥智の作品を選んで、グループごとに読む。
- 4) グループごとに作品について話し合う。
- 5) 書評にまとめ発表する。

感想交流会をする

身に付けさせたい力：自分の感想を大切に伝える力

授業過程

- 1) 全文を通読する。
- 2) 自分の感想をもつ。
- 3) 感想を交流する。
- 4) 自分の感想をもう一度考える。

同じテーマの作品を読み、読書討論会をする。

身に付けさせたい力：文章全体をつかんで考える力

授業過程

- 1) 「私を成長させた出来事」というテーマで自分を振り返り、100字程度にまとめる。
- 2) 全文を通読し、感想を書く。
- 3) 学習課題「人の成長について、自分たちが読んだ作品の読書討論会をしよう」を設定する。
- 4) 討論会の資料のモデル学習をする。
- 5) 作者の西洋を描いた他の作品を並行して読む。1作品選び、グループでパネリストになる準備をする。
- 6) 評論を書く。
- 7) 分担作品の評論及び要点を各自で書き、討論資料をグループで完成する。
- 8) 読書討論会を開催し、グループごとにパネリストとなって話し合う。自分の読みを対象化するために「読書討論会を終わって思ったこと」や「これからの自分の成長」をまとめる。

* 「麦わら帽子」を例に他の言語活動のアイデアを紹介しましたが、今回の「麦わら帽子」の授業の中で設定した「演出」という言語活動を、他の教材で使っていくこともできます。新教科書にも様々な言語活動が紹介されています。積極的に取り入れていきたいものです。

《言語活動の一例》

音読、朗読、群読、ジャンルを変えて書き換える、
筆者の紹介文を書く、フォトストーリーを書く、
本の帯づくり、キャッチコピー、ブックトーク、
CDジャケットを作る、書評を書く、詞華集を作る、
比べ読み、重ね読み、調べるために読む、など



教科書教材以外を使って・・・ジグソーリーディング

本来個人で行われる読みの過程を共有し、話し合いなどをしながら読み進めていく方法の一つとしてピア・リーディングがあります。そのピア・リーディングの一種であるジグソーリーディングを例に挙げました。例えば、次のようなねらいで使うことができます。

- ・ 要点をまとめたり，要約したりさせる。
- ・ 構成をとらえさせる。
- ・ 伏線など，作者の表現の工夫を考えさせる。

ピア・リーディングとは？

この方法は第二言語として日本語を習得する際、つまり日本語教育のための方法の一つです。

「読み」の力を付けるためには、文章のもつ文脈と、もともと生徒自身の中にある文脈とのずれを意識化することによって新たな知識を得る機会をもたせることが大切です。本来「読み」は個人の頭の中で行われる見えざる作業ですが、その読みの過程を他者との対話を取り入れることによって外から見えるようにし、更に他者と自分との違いからずれに気付き、ずれを修正させる手法として、ピア・リーディングが考えられました。

「繁栄の花」による授業展開例

教材：「繁栄の花」星 新一（光村図書 中学校1年教科書 昭和62年度版）

（『ひとつの装置』講談社 青い鳥文庫216-2ショートショート傑作選2に原文があります。）

1 準備

(1) 教材文の入ったワークシート

作品を4つの部分に分け、前半3部はランダムにA～Cと記号を付けます。A～Cにはそれぞれに対して内容把握のための問い（3～4問程度）と指示を付して印刷しておきます。最後の結末の部分はDとし、本文のみを印刷しておきます。

- ・ A～Cいずれかの記号を付けます。
- ・ 本文の一部を載せます。
分け方は、例えば、
初め～メール星人からサンプルが届く
繁栄の花が繁り栄える
メール星の使節団が来る
最後の部分
（最後の部分は記号や問いなどは付けず本文のみ）



ワークシート例

- ・ 「分からないところは印を付けながら、声を出さずに読みましょう」という指示と、問い（3～4問程度）
- ・ 問いは「『いかがでしょう～』と言ったのは誰ですか」のような、内容把握を助けるものです。答えを書き込むための空欄を各問いの下に設けます。

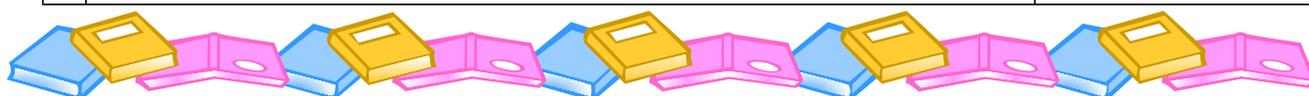
（構成を考える際は、起承転結のそれぞれで分けるという分け方もあるでしょう。）

- (2) エキスパートグループ、ジグソーグループのそれぞれでの活動の手順を記した手引き。
- (3) 「1 学習過程の説明」の際に掲示する用紙
- (4) グループ分けの計画

2 学習過程

	学 習 活 動	配 布 物 等
1	【学習過程の説明】全体の流れの説明を聞く。	
2	【個人の読み】 ・ ワークシート（A～Cのどれか）の本文を指示に従って読む。	ワークシート（A～C）

	・ 問いの解答を書き込む。	
3	【エキスパートグループによる読み】 ・ A, B, Cグループごとに集まる。 ・ 分からないところを相談したり, 答えを確認したりしながら, 内容を考える。	エキスパートグループ話合いの手引き
4	【ジグソーグループによる読み】 ・ A ~ Cのそれぞれから一人ずつ集まり, ジグソーグループを作る。 ・ 各自自分が読んだ文章の内容を他の人に伝える。 ・ A, B, Cをストーリーの順に並べる。理由も考える。 ・ この後の展開について話し合う。なぜそのように予測するかも話す。	ジグソーグループ話合いの手引き
5	【全体発表】 ・ ジグソーグループ各班からA ~ Cの順序とそう思う理由を発表する。 ・ 今後の展開の予想とそう予想する理由を発表する。 ・ 今後の展開について話し合う。	
6	【最終読解と感想交流】 ・ Dの部分を全員で読む。 ・ 感想を発表し合う。	ワークシートD



読書生活指導について

50年来言われた「読解」は文章を理解するための方法であった。古典を読み解くことから始まった「読解」が現代文にも及び、読解中心の学習のくり返しとテストによる確かめが国語ぎらいを生んだ。本を読む楽しみ、生活の中に活かす喜びを味わう学習が消えた。「読解力」をつけることは大切だ。しかしそれがスキル学習に堕することなく、生活の中で知識情報を得、あるいは感動を得て、他の行為に連動させていくトータルな営みとして教室に根づいていかなければならないであろう。また、そういう営みのできる学習者、読書生活者に育てていかなければならないのではなかろうか。⁽¹⁾

「読解力が低下している」「読みの力を付けなければ」という声を聞くと、「やはり、以前からあったような読解指導が必要」と短絡的に考えがちです。しかし、ともすればそれが「国語ぎらい」というような弊害を生むことを忘れてはならないでしょう。読解力とは、「生活の中で知識情報を得、あるいは感動を得て、他の行為に連動させていくトータルな営みとして教室に根づいていかなければならない」のです。そのためにも、読書生活指導は是非行わなければなりません。

国語科が中心となって学校全体で読書生活指導に取り組むようにしていきたいものです。

教師の読書生活はどうでしょうか？

「生徒が本を読まない」という嘆きの声をよく耳にしますが、それでは我が身を振り返ってみて、「教師の読書生活」はどうなっているのでしょうか。部活動、生徒指導と多忙な毎日の中で読書をする時間を見付けるのは大変なことです。しかし、最も効果的な指導とは、日常的に続ける次のような地道な指導ではないでしょうか。

1 生徒と共に読書をしましょう

朝読書をしている学校は多いようです。朝読書の時間には、生徒の読書の様子を観察したり、読む姿勢を注意したりすることも必要でしょう。しかし、それよりもっと生徒の読書意欲を高めるために効果的なのは、教師が本を読む姿を見せることです。本を読む時間を生徒と共有しましょう。

朝読書の時間は、本を指定したり、感想文を強いたりしないことが原則です。自由に読み浸る時間を確保することが朝読書の時間の目的です。ただ、自由だからといって他に何もしないのでは、「朝読書の時間はただ黙ってじっとしている時間」になってしまって、読書の楽しさを知らないでいる生徒や、読書の質や量を高めることができずにいる生徒はどうなるのでしょうか。朝読書をしているだけでは読書の個人差に対応できません。自由といいながら、生徒を放置していることになってはいないでしょうか。「朝読書の時間を設定しているから読書生活指導は大丈夫」と考えてはいませんか。「朝読書の時間」とともに他の手立ても必要です。

教師自らが本を手に取り、読書している姿を見せ、読書について語りましょう。

2 本の紹介をしましょう

「今のこの生徒にはこの一冊」というお薦めの本を一人一人の生徒に対して挙げる事ができればなんとすばらしいことでしょう。生徒の興味・関心や読む力を常に敏感にキャッチできるようにしましょう。同時に学校司書などとの情報交換を密にして紹介できる本のバラエティを広げましょう。

読み語りやブックトークも、まずは教師がやってみましょう。短時間で読めて質の高い本もあります。授業開始時の短い時間から始めてみてはどうでしょうか。

全文を読み語りするのが無理というような長い本の場合はブックトークの形で紹介してみましょう。ブックトークは形式にこだわらず、例えば本の冒頭部分を読んで聞かせ、「続きを読みたい人は……」のように終わっても興味をもたせることにつながるでしょう。

3 生徒同士の読書意欲の増幅を図りましょう

読みたくなる本は友達の薦めによるという調査結果もあります。どの生徒がどのような本を読んでいるかを把握して、それを全体で紹介したり、また本人に戻したりというような読書について生徒同士の交流の場面を工夫しましょう。ブックトークや読書記録、本の帯、キャッチコピーを活用することも考えられます。

4 アニメーションの手法を授業に持ち込みましょう

アニメーションはスペインで生まれた運動で、「アニメ」(魂、命)を生き生きさせるという意味があります。日本では読書運動として紹介されました。「教授」ではなく「教育」を大切にこそ読む能力が発達するという考えに立っています。読書への誘いのために読書単位として使うことができます。その他にも、例えば、初読直後に「この人、いたかな？」ゲームをしてみたり、学習のまとめとしてバラバラにした文章を元の形に復元してみたりすることも考えられます。慣れてくれば問題を生徒自身に作成させることも可能でしょう。『読書へのアニメーション75の作戦』の中の「本と私」「どんな人？」などは、扱い方によっては登場人物の心情や人物像をどうとらえるかという学習や、作品全体を解釈する学習にも使えるものです。アニメーションは遊びの要素を多分に含みながらも、生徒を「主体的で奥深い読み手⁽²⁾」に育てていく可能性をもっています。

5 読書単元を設定しましょう

教科書には夏休みや冬休みの前に当たる時期に読書にかかわる単元が組まれています。授業の進度によっては紹介されている作品の通読のみで終わり、という現状もあるようです。教材の取扱いに軽重を付けるのは必要なことですが、「読書の単元だから軽く」という認識であれば大きな間違いです。生徒の実態として読書の楽しさを知らない、無読者がいるという現状がある場合は特に読書の単元にこそ力を入れましょう。

おわりに

本研究委員会では、平成16年度佐賀県小・中学校学習状況調査の結果から、生徒の国語学習における問題点、そして指導方法改善の在り方を探ってまいりました。その中で、「読むこと」の学習で言語活動例の具体化を図ることの有効性がますます明らかになってきました。言語活動の設定の仕方と活動の中での指導のポイントについてさらに今後研究を深めていかなければなりません。

本稿では、「読むこと」の力を付ける言語活動と、指導のポイントについて授業事例を通して提案しました。中学校国語科の先生方の指導方法改善の参考にしていただければ幸いです。

《引用文献》

- (1) 安居 總子 東京都中学校青年国語研究会 編著
『中学校の読書指導 読書生活者を育てる』 2005年 東洋館出版社 p.30
- (2) M.M. サルト著 宇野 和美訳
『読書へのアニマシオン 75の作戦』 2001年 柏書房 p.29

《参考文献》

- ・ 佐賀県教育委員会 『平成16年度佐賀県小・中学校学習状況調査報告書』 平成17年
- ・ 文部科学省 『中学校学習指導要領解説 - 国語編 - 』 平成11年
- ・ 国語教育研究所編 『国語教育研究大辞典』 1991年 明治図書
- ・ 井上 一郎 『読む力の基礎・基本 - 17の視点による授業づくり - 』 2003年 明治図書
- ・ 大槻 和夫編著 『国語重要用語300の基礎知識』 2001年 明治図書
- ・ 尾木 和英編集・監修
『生徒を引きつける言語活動開発マニュアル』 2005年 東京法令出版
- ・ 河野 庸介 『中学校新国語科授業の基本用語事典』 2002年 明治図書
- ・ 河野 庸介編著 『中学校新国語科の授業モデル3「読むこと」編』 2001年 明治図書
- ・ 河野 庸介編著 『細案・略案で見る中学校新国語科授業プラン集』 2005年 明治図書
- ・ 河野 庸介編著 『中学校国語科週3時間の授業に対応した授業プラン集』 2003年 明治図書
- ・ 北尾 倫彦 金子 守編
『観点別学習状況の新評価基準表 中学校国語 - 単元の評価規準とA B C 判定基準』 2002年 図書文化社
- ・ 館岡 洋子 『ひとりで読むことからピア・リーディングへ 日本語学習者の読解過程と対話的協働学習』 2005年 東海大学出版会

佐賀っ子学力向上プラン
中学校国語科編

【研究委員】

佐賀県教育センター	糸山美和子
鳥栖市立基里中学校	有馬ゆかり
太良町立大浦中学校	宮寄 信仁